

# 地域貢献（ある施工業者の例）

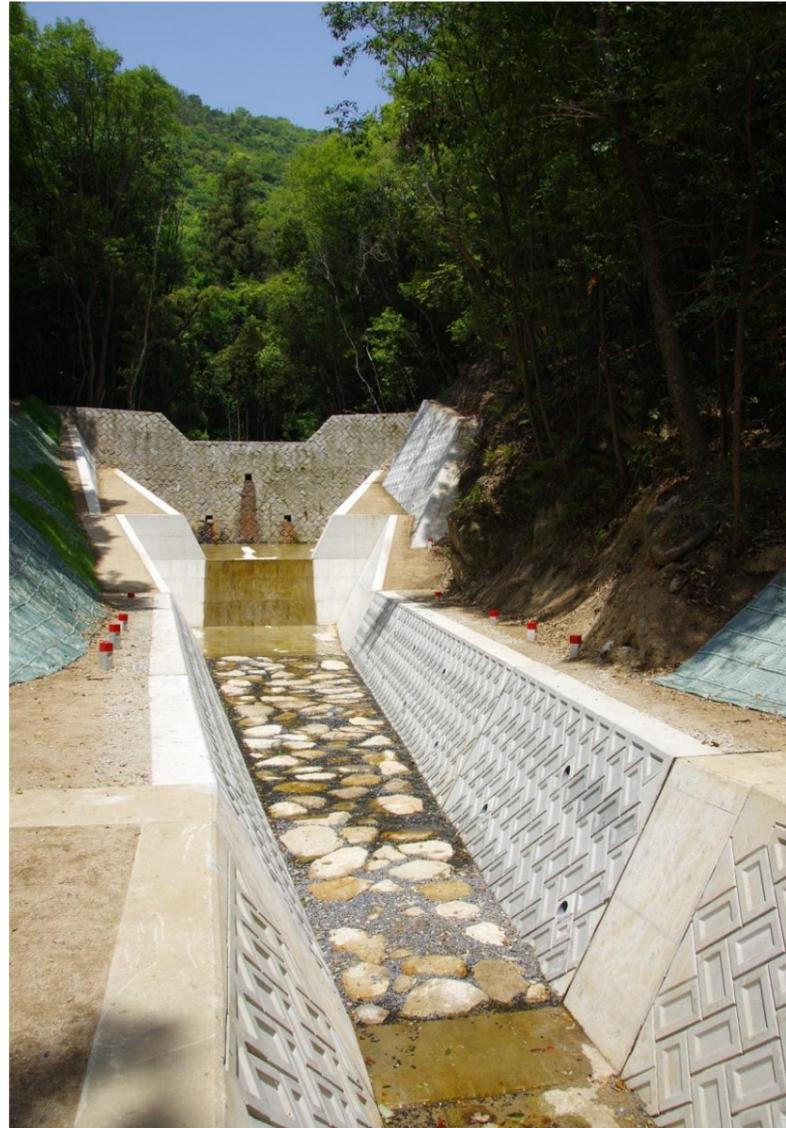
## 施工業者の現場責任者の思い

上流の木陰に寂として聳え立つ石張りの堰堤は、何とも言えない存在感と風格があり、終戦直後の機材の限られた時代に、これだけの精度で仕上げている先輩方の技術に感服させられたのが、最初の第一印象でした。伐開により視界が開け、木陰に潜んでいた堰堤が陽を浴びた様は、感慨深いものがあり、「良い仕事をして際立つものを造ろう」と奮起した瞬間でした。10箇年にわたる砂防河川事業の完結工事を、自社で施工できたことを誇らしく思います。有難うございました。

公共工事を請け負い、会社から工事の統括を一任され、収益や工事成績点・評判すべてをバランス良くまとめることは監理技術者にとっていつも悩む関心事です。時として評判（地域貢献）を軽視してしまいがちですが、それは大きな間違いです。公共工事を請け負う私達にとって“お客さん”なのは、発注者だけではなく地元の方々を含む関係者全員であり、これを見誤り疎かにすると工事は必ず行き詰まってしまう。

現地への入り方は非常に重要です。入札前の下調査においても受注後と同様の地元対応をしないと、不信感を持たれてしまいます。キチンと挨拶した上で「もし受注したら宜しくお願いします」と付け加えると、大抵の方が「頑張って下さいね」と励ましてくれます。コミュニケーションは本当に大事です。受注後、本格的に地元の方へあいさつを兼ね聞き取り調査をすると、工事発注の経緯や注意事項、不満・要望・イベント予定など様々な地元の状況が明らかになります。これらより工事期間中の地域貢献を立案します。

公共性の高いものや、地域の方の利便が向上するもの、共同で作業できるものを優先して取り組めば、必然と人間関係が出来ます。そうなれば、工事に伴う騒音・振動・交通障害等の避けられない地域への負担も心理的に軽減されるかもしれません。「良いものを造ろう」という強い意識を持ち、“お客さんを満足させたい”という姿勢が最終的に評価に繋がるものと考えます。



奥の石張り堰堤と整備した護岸



自治会主催の一斉清掃に参加



とんど祭りに参加



フリーマーケットに参加し工事の広報活動



仮設に用いたコンクリートブロック

公共施設の植樹枠に利用する。



ブロックの収集



着手前



ブロック植栽枠完成



工事イメージ看板を設置し 工事の必要性を説明する。



現場から学校に



穴埋め作業中

仮設に用いた砕石で学校の水たまりを埋める。